

SCHEDULE

東京都写真美術館展覧会スケジュール

2013	3階展示室	2階展示室	地下1階展示室	1階ホール
12		 	 〈Camera Lucida〉2004	 1 『ヴェルディ10大傑作 パルマ王立歌劇場ライブビュー』 12月7日(土)～12月28日(土) 『美輪明宏ドキュメンタリー ～黒蜥蜴を探して～/黒蜥蜴』 1月2日(木)、4日(土)～1月10日(金)  2 『手仕事のアニメーション』 1月11日(土)～1月26日(日)
1	植田正治と ジャック・アンリ・ラルティエグ 写真であそぶ 11月23日(土・祝)～1月26日(日)	日本の新進作家vol.12 路上から世界を変えていく 12月7日(土)～1月26日(日)	高谷史郎 明るい部屋 12月10日(火)～1月26日(日)	
2	第6回恵比寿映像祭「トゥルー・カラーズ」 2月7日(金)～2月23日(日)			
3		 	APAアワード2014 3月1日(土)～3月16日(日)  ©International Center of Photography / Magnum Photos 101年目のロバート・キャパ - 誰もがボブに憧れた 3月22日(土)～5月11日(日)	 © 2013仙台放送 『僕がジョンと呼ばれるまで』 3月1日(土)～
4		～黒部と槍～ 冠松次郎と穂刈三寿雄 3月4日(火)～5月6日(火・休)		1. © Roberto Ricci/ Teatro Regio di Parma 2. © ROBOT
5	下岡蓮杖(仮称) 3月4日(火)～5月6日(火・休)			※本誌に掲載のスケジュール・ 展覧会タイトル・関連イベント等 は予告なく変更される場合が あります。最新の情報はホーム ページをご覧ください。

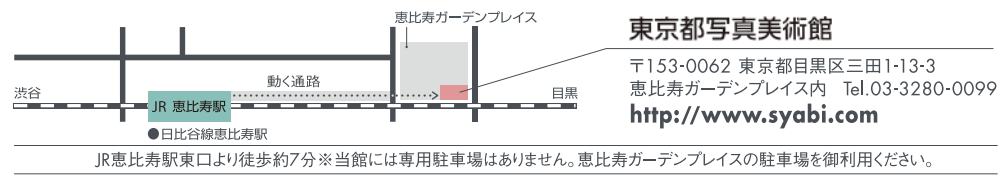
2014年5月12日以降の展覧会スケジュールは、決定次第ホームページで発表します。

ご利用案内

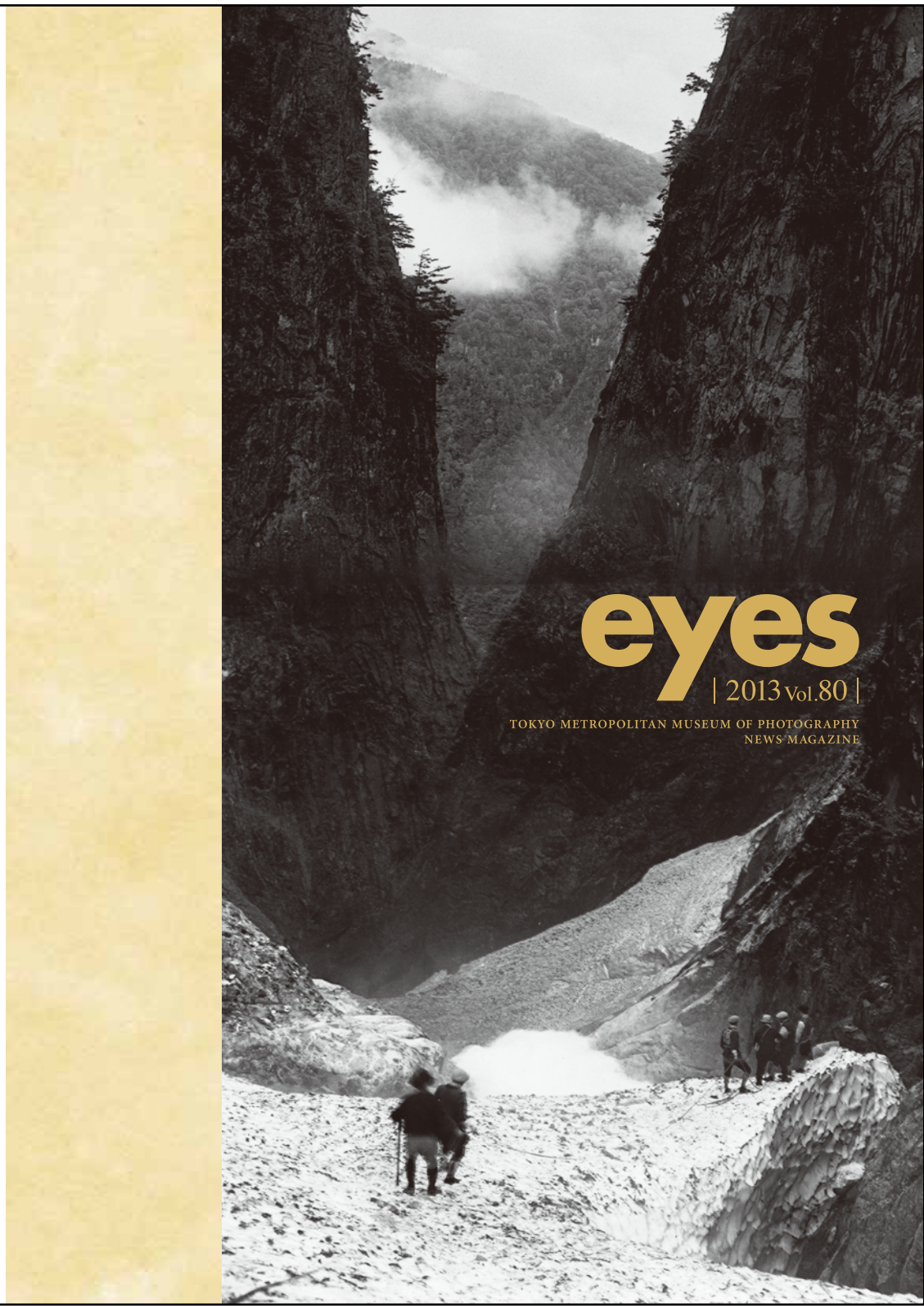
- 休館日：毎週月曜日(月曜日が祝日の場合、その翌日)、年末年始(12月29日～2014年1月1日)、2014年1月28日～2月6日、2月25日～2月28日
- 開館時間：10:00～18:00(木・金は20:00まで)、12月28日は10:00～18:00、2014年1月2日・3日は11:00～18:00、1月4日以降は通常の開館時間となります。※入館は閉館の30分前まで

2014年1月2日・3日は年始特別開館：イベント詳細は本誌P12をご覧ください。最新情報はホームページをご確認ください。

割引チケットの販売 3展示をすべて鑑賞できる「セット券」、2展示を選べる「チョイス券」を販売しております。詳しくはチケット売り場でおたずねください。



※本誌編集ページに掲載されている観覧料および商品の価格は、原則として消費税込みの価格です。
東京都写真美術館ニュース「アイズ13」80号 ●発行日：2013年12月9日 / 企画・編集：東京都写真美術館事業企画課 普及係
●印刷・製本：JTB印刷株式会社 ●発行：公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都写真美術館 ©2013 ●本誌掲載の記事、写真の無断複製、複製を禁じます。



eyes
| 2013 Vol.80 |

TOKYO METROPOLITAN MUSEUM OF PHOTOGRAPHY
NEWS MAGAZINE



冠松次郎と穂苺三寿雄 黒部と槍

Valleys and Peaks
Kamumori Matsujiro and
Hokari Masuo

冠松次郎(1883-1970)と穂苺三寿雄(1891-1966)はともに、日本における山岳写真のパイオニアと言われる作家たち。明治大正の時代、およそ100年前から活躍した彼らの写真には、今も変わらない厳しい山の姿を見る事ができるが、また一方で、現代では見ることのできない失われた自然も多く写されている。また日本の山が「秘境」と言われた時代に活躍した先駆者たる冠と穂苺は、どのような作家であったのか？「山と溪谷」元編集長の神長幹雄氏と、展覧会を企画した関次和子学芸員に話をうかがった。

まずは、それぞれの作家の特徴についてお教えいただけますか。例えば、穂苺三寿雄の焼岳噴火の写真は迫力があって、誰にもその凄さがすぐに分かります。

神長「自然をあるがままの美しさで表現できる作家でした。穂苺さんが撮った大正池(P4左)の写真も素晴らしい。今では、写真に写っている枯木はほとんどなくなってしまって、全く違う風景になってしまいました」

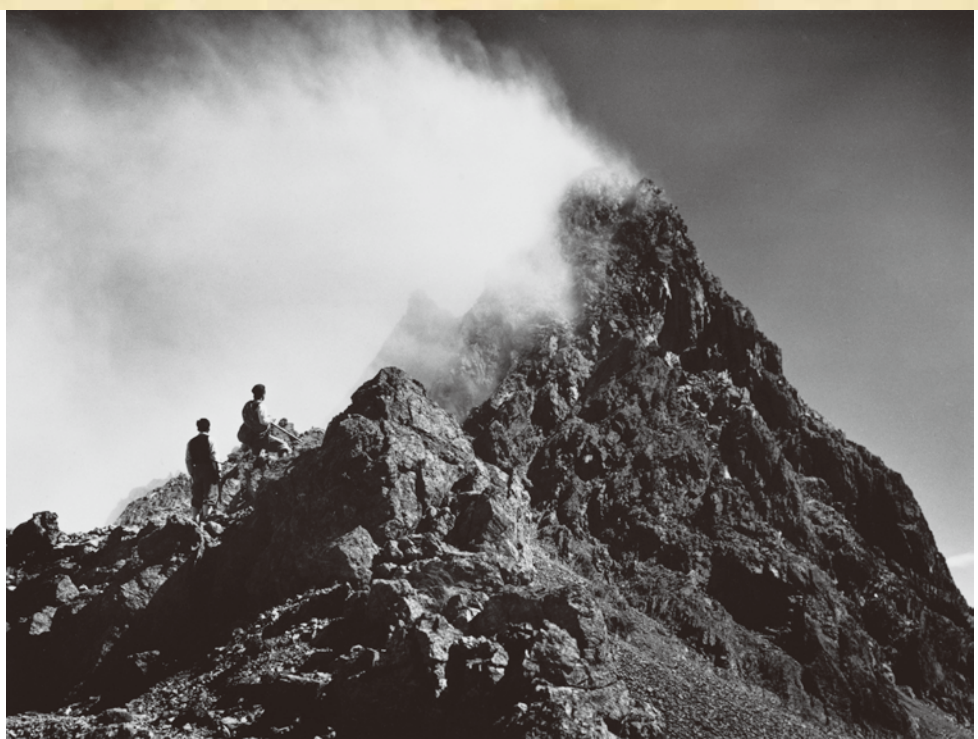
関次「穂苺さんの作品はどれも、山を生活の拠点とし、自然とともに生きて人であったからこそ、撮ることができた写真だったと思います。ご自身は、大正3年7月に槍ヶ岳登頂を果たしていますが、その後、革新的なことをいろいろと行っているんです」

革新的なこととは？

関次「槍ヶ岳のある北アルプスは、3000メートル級の山が連なる日本でも有数の大山脈です。そこに最初に山小屋ができたのは白馬岳でしたが、軍の測量部の岩室を改造した簡易なものでした。その次に出来たのが、穂苺さんが大正6年に建設した槍ヶ岳の槍沢小屋でした。まだ登山客も少ない大正時代の黎明期に、わざわざ山小屋を建てて経営しようという発想は、とても革新的なことでした」

神長「この時代、山小屋建設は本当に大変なことでした。今と違って当然ヘリコプターもないので、資材や荷物をすべて人力だけで山の上まで運ばないといけなかったのです」

関次「まさに執念ですね。それだけの強い思いがあったからこそ、槍ヶ岳を



穂苺三寿雄《雲晴れる槍ヶ岳》昭和初期 穂苺貞雄氏蔵

開山して祠に神様をお祀りし、登山道を整備した^{ばんりゅうしょうにん}播隆上人の研究にも力を注いだのでしょう。穂苺さんは登山家、写真家としてだけでなく、山小屋の経営者、研究者、文筆家としてなど、総合的に槍ヶ岳に関わっていったのです」

写真は、どれも迫力のあるものばかりですね。

神長「穂苺さんは、ただ山を撮れば良いというのではなく、構図に工夫があったり、人を風景の中に配置してみたりと、「見る」と「伝える」ことを同時に考えるような報道写真の感覚があった人だと思いますね。また、松本で写真館を経営していたこともあって、人物を生き生きと撮る写真家が非常に上手いということでもありますから」

一方、冠松次郎とは、どういう方だったのでしょうか？

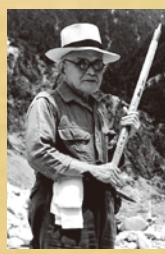
神長「黒部をこよなく愛した登山家、そして、文章を書く人でした。穂苺さんも文章を書く人でしたが、量は断然、冠さんのほうが多い。昭和33年刊行の「アルプ」という雑誌がありまして、その中でも、冠さんはかなりの

数を寄稿しているんです。山登り、つまり未知に対する強い憧れとともに、文章と写真で記録に残すということを通じてイメージしていた人ではないかと思います」

関次「生前に著した本だけでも、30冊を越えています。ダムが建設されるまで黒部は人の入らない秘境の地でしたが、そこに冠さんは分け入って、溪谷の素晴らしさ、厳しさを人々に伝えていったんです」



上) 穂苺三寿雄
《槍ヶ岳開山 播隆》自筆原稿
右) 愛用のカメラ グラフレックスシリーズB



かんむり・まつじろう(1883-1970)
1911年、白馬岳から宇奈月に出た際、初めて黒部に接し、その自然に魅せられる。その後、立山から御山谷を下り黒部本流に足を踏み入れたのを皮切りに、20年、下ノ廊下初下降、25年、下ノ廊下完全遡行および十字峡の発見と命名など、数々のパイオニア・ワークを果たす。生涯に書き記した30を超える著作により、黒部を紹介した。



ほかり・みすお(1891-1966)
1917年10月、槍沢のパパ平に北アルプスで2番目の営業小屋となる槍沢小屋を建設。21年、大槍小屋、26年、肩の小屋をそれぞれ建設。大正初期から写真家としても活躍。39年には東京山岳写真会(現・日本山岳写真協会)の創立会員として参加。播隆上人研究者としても知られ、63年『槍ヶ岳開山 播隆』を出版。



冠松次郎《十字峽(剣沢・棒小屋沢)》1925年8月

神長「その生き方を讀んで詩人の室生犀星が書いた〈冠松次郎氏におくる詩〉の一節(劍岳、冠松、ウジ長(宇治長次郎)、熊のアシアト、雪溪、前劔、粉ダイヤと星、凍つた藍の山々、冠松、ヤホー、ヤホー)は、とても印象的です」

冠松次郎の写真作品にはどのような特徴があるのでしょうか?

神長「沢の写真は被写界深度のとり方が難しく、どうしても画が平板になってしまうんです。なかなか光が入らないので、撮影は一層難しい。しかし、冠さんはシャッタースピードが遅くなくても、被写界深度を深くして撮影し、奥行きのある画面に仕上げています。そういうところは本当に上手いなと思います」

登山を楽しむ文化が明治大正期に広まったのは、このお二人をはじめとする登山家や写真家の功績に負うところも大きいのですか?

神長「これまで何度か登山ブームがおこっています。第一次の登山ブームが、明治大正の頃、その後、1956年に日本隊がヒマラヤのマナスル(標高8,163mで世界8位)に初登頂して第二次登山ブームがおき、その次に20年ほど前の中高年者の登山ブームがあって、第四次のブーム

が今の山ガールブームだと言われています。つまり明治大正期は、登山文化の黎明期であったわけです。この頃は、社会全体が進取の気性に富み、西洋からは困難な登山を追求するアルピニズムの洗礼を受けていた時代でした。登山ブームはそんな中でおこっていったわけですが、そのひとつの特徴は、本がたくさん出版されたことにあります。穂苅さんや冠さんなどの著した読み物や写真集などに触発されて、登山を楽しむ文化が大きく広まっていったわけです」

関次「開発が進んだ今とは全く違い、この頃の山は秘境ですからね。写真家も、秘境を探検するという気概をもって山に臨んでいました。当然、今みたいに登山道もきちんと整備されていませんし。この頃の登山家たちは、山に対して真摯に取り組んでいました」

神長「今、山ガールがブームと言われていますけど、実際には若い男性も山に入ってきていて山ボーイもたくさんいる。今の若い人たちの時代というのは、生まれた時から目の前に携帯電話もパソコンもあり、ゲームなど非現実を遊ぶ娯楽もたくさんあるけれども、それに対し、どこかで人間が本来もっているアンチテーゼのようなものが働いて、リアルなものを欲する傾向もあるのではないかなと思うんですね。彼らは、中高年登山ブームにあったようなツアーで山に登ったり、登った山の数を競ったりということではなく、もっと文化に触れようという気持ちで山に入ってきているところがある。だからこそ、もっと山を勉強してほしいと思います。その一つが、先人から学ぶということです。二人の写真からも、多くのことを学ぶことができる。彼らが当時、どういふふう山登りをしていたのか、つまり、まだ秘境であった日本の山に臨むにあたり、どういふ装備で山に入って行ったのか、どういふ苦勞があったのかなど、その気概や生き方をトータルに感じて、登山の歴史を知ってほしいなと思います」

(2013年10月インタビュー 構成=富田秋子)



冠松次郎《鹿島槍ヶ岳(小窓の雪渓より)》撮影年不詳



左)穂苅三寿雄《冬の焼岳と大正池》昭和初期 右)穂苅三寿雄《岩登り》昭和初期 穂苅貞雄氏蔵
表紙)冠松次郎《剣の大滝を囲む大岩壁》1926年8月 公益社団法人日本山岳会蔵 ※表紙は部分

2F

2階展示室 Exhibition Gallery

友の会割引 | 三越カード割引 | アトレビュー-Suicaカード割引

2014年3月4日(火) → 5月6日(火) (休)

黒部と槍 冠松次郎と穂苅三寿雄

□ 一般 700(560)円 □ 学生 600(480)円 □ 中高生・65歳以上 500(400)円

()は20名以上の団体および東京都写真美術館友の会会員、当館の映画鑑賞券ご提示者、上記カード会員割引料金
※小学生以下および障害者手帳をお持ちの方とその介護者は無料 ※第3水曜日は65歳以上無料

□ 主催:公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都写真美術館/読売新聞社/美術館連絡協議会 □ 後援:公益社団法人日本山岳会/黒部市/松本市 □ 特別協賛:大伸社 □ 協賛:ニコソ/ニコイメージングジャパン/ライオン/清水建設/大日本印刷/損保ジャパン/日本テレビ放送網/東京都写真美術館支援会員 □ 協力:山と溪谷社

戦前日本の登山史上もっとも著名な登山家の一人にして、黒部渓谷を舞台に多くの山岳写真と紀行文を残した冠松次郎(1883-1970)。明治42(1909)年、26歳で日本アルプスの踏査を開始した冠は、その後、黒部の自然に魅せられ、秘境・黒部渓谷の地域探査など数々のパイオニア・ワークを果たし、“黒部の主”の異名をとりました。そして北アルプスで山小屋経営を行い、地の利を生かした山岳写真と槍ヶ岳を開山した播隆上人の研究で知られる穂苅三寿雄(1891-1966)。幼い頃から山に親しんできた穂苅は、大正6(1917)年に槍沢小屋を開設。さらに松本市内に写真館を開業し、山岳絵はがきを販売するかわら写真を撮り続け、積雪期の槍ヶ岳など山岳写

真史における先駆的業績を数多く残しました。本展は、初期日本山岳写真史にその名を刻む二人の写真家の偉業を、現存するオリジナル・プリント約120点と多彩な資料で検証するとともに、日本が世界に誇る黒部渓谷、北アルプスの美しい大自然に迫ります。

連続対談

【黒部を撮る・黒部に生きる】3月29日(土)14:00-15:30

□ゲスト:永田秀樹(「岳人」元編集長)、志水哲也(写真家)

【槍を撮る・槍に生きる】4月5日(土)14:00-15:30

□ゲスト:神長幹雄(「山と溪谷」元編集長)

穂苅康治(槍ヶ岳山荘グループ代表)

【山を見る・撮る・読む】4月12日(土)14:00-15:30

□ゲスト:大森久雄(編集者/実業之日本社・元出版部長)、水越武(写真家)

※詳細につきましてはホームページでお知らせします。

担当学芸員によるフロアレクチャー 第1・3金曜日 16:00~

※本展覧会の半券(当日有効)をお持ちの上、会場入口にお集まりください。

2F

2階展示室 Exhibition Gallery

友の会割引 三越カード割引 アトレビュー-Suicaカード割引

12月7日(土) → 2014年1月26日(日)
2014年1月2日・3日は年始特別開館日本の新進作家 vol.12
路上から世界を変えていく

Contemporary Japanese Photography vol.12 every stroller can change the world.

□ 一般 700(560)円 □ 学生 600(480)円 □ 中高生・65歳以上 500(400)円

()は20名以上の団体および東京都写真美術館友の会会員、当館の映画鑑賞券ご提示者、上記カード会員割引料金
※小学生以下および障害者手帳をお持ちの方とその介護者は無料 ※第3水曜日は65歳以上無料□ 主催:公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都写真美術館/東京新聞
□ 協賛:凸版印刷株式会社/東京都写真美術館支援会員 □ 技術協力:キヤノン株式会社上)林ナツミ《Today's Levitation 05/13/2011》2011年
下)津田隆志《site》より 2012年

当館では、将来性のある作家たちの写真・映像の可能性に挑戦する創造的精神を支援し、新しい創造活動の場となるよう様々な事業を展開しています。その中核となるのが、毎年異なるテーマで開催する「日本の新進作家」展です。その第12回目となる本展は「路上から世界を変えていく」をテーマに、2010年代日本の新たな視点や表現を切り開く現代作家たちをとりあげます。写真の歴史上、多くの写真家たちが路上を舞台に、ストリート写真という形で優れた作品を生み出してきました。「路上」は現実と対峙する場であり、思いがけない出会いと発見の場として、様々な芸術家たちを魅了してきました。本展の出品作家たちは、「路上」という日常の場所から出発して、今という時代を考察し、自身の立ち位置を模索し、作品を通して人々の世界観やものの見方、感じ方を変えていくような表現活動を行っています。本展は「路上」というキーワードで現代作家たちを紹介することによって、この時代の空気感や意識の在り様をも顕在化させようとする試みです。

▶▶ 出品作家

大森克己、糸崎公朗、鍛冶谷直記、林ナツミ、津田隆志

※ 担当学芸員によるフロアレクチャー 第2・4金曜日 14:00~
※ 本展覧会の半券(当日有効)をお持ちの上、会場入口にお集まりください。

※ アーティスト・トーク

12月21日(土) 13:00-14:30 糸崎公朗、15:30-17:00 津田隆志
1月11日(土) 13:00-14:30 林ナツミ、15:30-17:00 鍛冶谷直記
1月18日(土) 14:00-15:30 大森克己
□ 会場:東京都写真美術館1階アトリエ
□ 対象:本展覧会チケット半券をお持ちの方 □ 定員:各回50名
□ 受付:各回当日10時より当館1階受付にて整理券を配布します。
□ 開場時間:各回とも開催時間の15分前より 整理券番号順入場/自由席

B1F

地下1階展示室 Exhibition Gallery

友の会無料 三越カード割引 アトレビュー-Suicaカード割引

12月10日(火) → 2014年1月26日(日)
2014年1月2日・3日は年始特別開館

高谷史郎 明るい部屋

TAKATANI SHIRO Camera Lucida

□ 一般 500(400)円 □ 学生 400(320)円 □ 中高生・65歳以上 250(200)円

()は20名以上の団体、当館の映画鑑賞券ご提示者、上記カード会員割引料金 ※小学生以下および障害者手帳をお持ちの方とその介護者は無料 ※東京都写真美術館友の会会員は無料 ※第3水曜日は65歳以上無料

□ 主催:東京都 東京都写真美術館/産経新聞 □ 協賛:凸版印刷株式会社 □ 協力:NECディスプレイソリューションズ株式会社/山口情報芸術センター[YCAM]/comos-tv □ 後援:サンケイスポーツ/タ刊フジ/フジサンケイビジネスアイ/iza!/SANKEI EXPRESS



《Camera Lucida》2004

芸術監督として、国際的な芸術家集団「ダムタイプ」の制作に携わる一方、映像作家としても活躍する高谷史郎の幅広い活動を紹介します。本展では、インスタレーションとして制作された《Camera Lucida》(2004)、初公開の新作《Toposcan》ほか、当館のコレクション作品で、高谷の活動の原点である写真映像の歴史を検証します。

※ 特別アーティスト・トーク

1月3日(金)16:00-17:30 □ 会場:1階ホール(定員190名)
□ 出演:坂本龍一(音楽家)×浅田彰(批評家)×高谷史郎(出品作家)
□ 対象:本展覧会チケット半券をお持ちの方
□ 受付:当日10時より当館1階受付にて整理券を配布します
※ 詳細は本誌P12をご覧ください

※ 担当学芸員によるフロアレクチャー

第2・4金曜日 16:00~
※ 本展覧会の半券(当日有効)をお持ちの上、会場入口にお集まりください。

3F

3階展示室 Exhibition Gallery

友の会割引 三越カード割引 アトレビュー-Suicaカード割引

11月23日(土)祝 → 2014年1月26日(日)
2014年1月2日・3日は年始特別開館

植田正治とジャック・アンリ・ラルティエグ 写真であそぶ

Ueda Shoji & Jacques Henri Lartigue PLAY WITH PHOTOGRAPHY

□ 一般 700(560)円 □ 学生 600(480)円 □ 中高生・65歳以上 500(400)円

()は20名以上の団体および東京都写真美術館友の会会員、当館の映画鑑賞券ご提示者、上記カード会員割引料金
※小学生以下および障害者手帳をお持ちの方とその介護者は無料 ※第3水曜日は65歳以上無料

□ 主催:公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都写真美術館/朝日新聞社 □ 特別協力:ジャック・アンリ・ラルティエグ財団 □ 協賛:東京都写真美術館支援会員 □ 後援:在日フランス大使館/アンスティチュ・フランセ日本

生涯アマチュア精神を貫き、撮ることを純粋に楽しんだ植田正治とジャック・アンリ・ラルティエグ。本展は二人の偉大な写真家の業績を堪能するだけではなく、選りすぐった176点の作品をとおして、それぞれの作品が近代写真表現の成熟期において、いかに独特であったか、そして時代性を捉えていたかを問う初めての試みです。

※ 担当学芸員によるフロアレクチャー 第1・3金曜日 16:00~
1月3日(金)は11:15~16:00~の2回のフロアレクチャーを開催します。
※ 本展覧会の半券(当日有効)をお持ちの上、会場入口にお集まりください。

左)植田正治《後ろ向きの少女》1949年
右)ジャック・アンリ・ラルティエグ《ブットに柔道を教えるリコ、ルーザ》1910年
8月 Photographie JH Lartigue © Ministère de la Culture - France / AAJHL

下岡蓮杖 SHIMOOKA Renjyo (仮称)

3階展示室

2014年3月4日(火) - 5月6日(火・休)

本展は日本の初期写真史において最も重要な写真師の一人である下岡蓮杖(1823-1914)が制作した写真作品、日本画作品を中心に展示し、日本写真文化の礎を築いた蓮杖の足跡をたどる大回顧展です。その長命な生涯について、最も体系的に記された口述筆記『写真事歴』(山口才一郎筆記、1894年、写真新報社)は、長年信憑性が低いものと理解されてきましたが、近年の研究によって再評価されています。本展は、この『写真事歴』を軸に、下岡蓮杖の生涯を実作品の展示によってひととく、日本初の試みです。

～下岡蓮杖とは～

日本の写真開祖の一人。日本人初の営業写真師は鷗館玉川の方がわずかに早い、横山松三郎、臼井秀三郎、鈴木真一など多くの弟子を輩出した開祖と呼ぶべき人物です。伊豆下田に生まれ、13歳の頃に画家を目指し、江戸狩野派絵師・狩野菫川の弟子となり、菫川の号を得るまでに至ります。絵師としての生活で写真と出会います。1859年に横浜が開港すると、アメリカの貿易商ショイヤーと関わり、その妻や宣教師の娘「ラウダ」に油彩画の手ほどきを受け、アメリカ人写真師ジョン・ウィルソンから写真技術を学びます。1862年に開業するも、当初は技術的な面や薬劑の調合などが難しく苦勞します。やがて技術も安定し、同年中に弁天町に写真場を増やすと『横浜奇談』(1864年)に写真師として唯一載るなど知名度を上げていきました。馬車道をはじめ2軒の支店を出し、1875年頃まで写真師として第一線で活躍しました。その後は東京・浅草へ移り、写場背景画の制作をする傍ら多くの日本画作品を制作し、写真とは異なる手業の画面制作へ情熱を傾けていきました。

友の会無料 | 三越カード割引 | アトレビューSuicaカード割引
一般 700(560)円 / 学生 600(480)円 /
中高生・65歳以上 500(400)円

()は20名以上の団体、当館の映画鑑賞券ご提示者、上記カード会員割引料金 ※小学生以下および障害者手帳をお持ちの方とその介護者は無料 ※東京都写真美術館友の会会員は無料 ※第3水曜日は65歳以上無料

□主催：東京都 東京都写真美術館 / 読売新聞社 / 美術館連絡協議会 / 静岡県立美術館 □協賛：ライオン / 清水建設 / 大日本印刷 / 損保ジャパン / 日本テレビ放送網

弟子の横山松三郎の「旧江戸城写真帳」の制作に同行したと考えられる。撮影地の記載方法が独特であり、『アサヒグラフ』写真百年祭記念号(大正14[1925]年)にも掲載がある。蓮杖の江戸の捉え方を知る作例。



下岡蓮杖「昌平橋」「下岡蓮杖・臼井秀三郎アルバム」より
慶応4(1868)年頃 鶏卵紙 一般財団法人日本カメラ財団蔵

蓮杖は「富士山聳え、其下に茅屋あり、大樹傍らに生じ、一壺あり、其中央に懸り蛇ありて壺を窺ふ」という夢を見たことから、この意匠を決めたという。のちに、蛇は人類に薬を教えたものだと宣教師から聞いた。薬は写真にとって欠かせないもので、以後なお喜んで用いた。aは、弁天町の時代に使用したもので、bは太田町に移転して以降、長らく名刺判の裏面に押されて使用される意匠。比較するとbの線が巧みに整理されている事がわかる。



a) (下岡蓮杖納品袋) 沼津市立 明治史料館蔵 文久3(1863)年頃 b) 下岡蓮杖名刺判 裏面のスタンプ 慶応3(1867)年頃 東京都写真美術館蔵

❖ 展示会関連イベント

※詳細につきましては決定次第ホームページでお知らせします。

❖ 担当学芸員によるフロアレクチャー 第2・4全曜日 14:00～
※本展覧会の半券(当日有効)をお持ちの上、会場入口にお集まりください。



左上) 下岡蓮杖
(酒を酌み交わす3人の職人)

左下) 下岡蓮杖(日傘を差す少女)

右) 下岡蓮杖(梅の枝を活ける女性)
すべて文久2(1862)年-明治9(1876)年頃
鶏卵紙 東京都写真美術館蔵



約150点に及ぶ蓮杖の名刺判写真は、風俗、風景、肖像の3つのモチーフからなる。また、同図で着色と無着色のものもあり、蓮杖が販売した名刺判を知るには最適な作品群である。

四曲半双の屏風絵。91歳の筆であると明記された作例。それを疑いたくなるほど強くブレのない筆致で描かれており、晩年においてもまったく衰えを見せない蓮杖の画力を堪能できる。



下岡蓮杖「琴棋書画図屏風(四曲半双)」大正元(1912)年頃 絹本着彩、屏風
神奈川県立近代美術館蔵

➤ 出品予定作品

東京都写真美術館蔵の150点におよぶ名刺判写真(鶏卵紙・鶏卵紙に手彩色)、蓮杖の開業時期の制作と考えられる「木村政信像」(アンプロタイプ)、「吉田庸徳像」(アンプロタイプ、行田市指定文化財)、「下岡蓮杖・臼井秀三郎アルバム」(鶏卵紙・JCI蔵)ほか



文久2年の年記があり、蓮杖が開業した時期を知る上で重要である。桐箱に収められる一般的な様式と異なり、無着色の木製額に収められる点も、最初期の日本の写真を知る上で意義深い。



下岡蓮杖「木村政信像」文久2(1862)年
アンプロタイプ 東京都写真美術館蔵

第6回恵比寿映像祭



東京文化発信
プロジェクト

Yebisu International Festival for
Art & Alternative Visions

TRUE COLORS

TRUE COLORS トゥルー・カラーズ
2.7 fri - 2.23 sun / 2014 15days
[Closed: 2.10 mon 2.17 mon]

平成26年2月7日(金)～2月23日(日)《15日間※2月10日(月)、17日(月)は休館》

会場／東京都写真美術館、恵比寿ガーデンプレイスセンター広場、ザ・ガーデンルームほか
時間／10:00～20:00 ※最終日は18:00まで 入場／無料 ※上映、ライブ、レクチャーなど、定員制のものは一部有料

【主催】東京都／東京都写真美術館、東京文化発信プロジェクト室(公益財団法人東京都歴史文化財団)／日本経済新聞社【共催】サッポロ不動産開発株式会社【後援】J-WAVE 81.3FM【協賛】東京都写真美術館支援会員【協力】NBCディスプレイソリューションズ株式会社／東芝ライテック株式会社／東芝エルティエーエンジニアリング株式会社／Kyoto DU／びあ株式会社／株式会社北山創造研究所／株式会社トリプルセブンインタラクティブ／株式会社ロボット

東京都写真美術館
www.yebizo.com

第6回恵比寿映像祭

恵比寿映像祭は毎年15日間にわたり、展示、上映、ライブ・パフォーマンス、関連イベントなどによって複合的に構成する、映像とアート国際フェスティバルです。毎回、異なるテーマのもと、国内外から集う多彩な作品やプログラムを通して、「映像とは何か?」について問いかけてきました。第6回恵比寿映像祭の総合テーマ「トゥルー・カラーズ」は、映像というメディアが映し出す現代社会の多様性を示しています。世界がグローバリゼーションの一途をたどるなかで失われたものの重要性や、新たに生み出されたネットワークやコミュニティ、さらにそれらが示唆する未来の可能性についての考察を試みます。様々な映像表現が、現代の様相を視覚的にとらえることを可能にします。

展示 東京都写真美術館
3階、2階、地下1階 (入場無料)

Exhibition

【出品予定作家】:アーキティック・パスベクティヴ・イニシアティヴ [マルコ・ペリハン、マシュー・ピーターマン](カナダ・アメリカ・スロヴェニア)／朝海陽子(日本)／キムスージャ(韓国)／西京人[小沢剛、チェン・シャオシオン、ギムホンソック](日本・中国・韓国)／シトー・ジュラチ(ロシア)／シャジャ・シカンダー(パキスタン)／ジョウシン・アーサー・リュウ(台湾)／タリン・ギル&ピラー・マタ・デュボン(オーストラリア)／ナルパティ・アワング a.k.a. オムレオ(インドネシア)／ハッサン・カーン(エジプト)／分藤大翼(日本)／ほか

上映 東京都写真美術館 1階上映ホール
(定員190名・有料チケット制)

Screening

【出品予定作家】:ケント・マッケンジー(アメリカ)／宋冬(中国)／タッド・エルミターニョ(フィリピン)／白諦(中国)／藤幡正樹(日本)／ラヴ・ディアス(フィリピン)／ほか
【ゲストプログラマー】:川瀬慈(日本)／ソ・ジンソク(韓国)／松井茂(日本)
【リンク先組織】:オルタナティヴ・スペース・ループ(韓国)

オフサイト展示 恵比寿
ガーデンプレイス
センター広場(無料)

Off-site Project

【出品予定作家】:西京人[小沢剛、チェン・シャオシオン、ギムホンソック](日本・中国・韓国)

図版:1.タリン・ギル&ピラー・マタ・デュボン《エヴァー・ハイヤー》2011年 2.シャジャ・シカンダー《ラストポスト》2010年 3.朝海陽子《ノーザリーウィンド》2011年【参考図版】 4.西京人《ようこそ西京に-西京入国管理局》2012年 5.白諦《身分・シェンファン》2013年 6.宋冬《食事風景》2005年 7.タッド・エルミターニョ《セレクション14344》2009年 8.藤幡正樹《眼のうつわ》1979年

最新情報は恵比寿映像祭公式ホームページ(www.yebizo.com)をご確認ください。

東京文化発信プロジェクトとは

東京文化発信プロジェクトは、「世界的な文化創造都市・東京」の実現に向けて、東京都と東京都歴史文化財団が芸術文化団体やアートNPO等と協力して実施しているプロジェクトです。都内各地での文化創造拠点の形成や子供・青少年への創造体験の機会の提供により、多くの人々が新たな文化の創造に主体的に関わる環境を整えるとともに、国際フェスティバルの開催等を通じて、新たな東京文化を創造し、世界に向けて発信していきます。www.bh-project.jp



東京文化発信
プロジェクト



シンポジウム Symposium	東京都写真美術館1階上映ホール (定員190名・有料チケット制)
ラウンジトーク Lounge Talk	東京都写真美術館 2階ラウンジ(無料)
レクチャー Lecture	東京都写真美術館1階アトリエ (定員70名・有料チケット制)
ライブ Live	ザ・ガーデンルーム (定員150名・有料チケット制)
地域連携プログラム Partnership Program	恵比寿地域文化施設及び ギャラリーなど

101年目のロバート・キャバ

- 誰もがボブに惚れた

□ 一般 1,100(880)円 □ 学生 900(720)円 □ 中高生・65歳以上 700(560)円

()は20名以上の団体および東京都写真美術館友の会会員、当館の映画鑑賞券ご提示者、上記カード会員割引料金
※小学生以下および障害者手帳をお持ちの方とその介護者は無料 ※第3水曜日は65歳以上無料□ 主催:朝日新聞社 □ 共催:東京都写真美術館 □ 企画協力:東京富士美術館 □ 特別協力:マグナム・フォト東京支社
□ 協賛:野崎印刷紙業

40年の生涯の中でスペイン戦争など5つの戦場を写した写真家として知られるキャバですが、約7万点とも言われる作品の中には、同時代を生きる人びとや友人たちへの思いをこめて写されたカットが数多く存在します。本展は、キャバの真骨頂ともいえるユーモアや生きる喜びが表れた作品を中心に構成し、編集者としてキャバの盟友であり続けたジョン・モリス氏へのインタビュー映像などを通して、次の100年に向けた新たなキャバを見ていただく機会になります。「伝説のカメラマン、キャバ」ではなく、挫折や失意を味わいながらも、笑顔を忘れず多くの友人と友情を深め、女性たちと恋に落ちたボブ(キャバの愛称)の等身大の魅力をこの機会にご覧ください。



- 1) シャトル 1944年8月23日 ©International Center of Photography / Magnum Photos
- 2) 空襲警報 バルセロナ、スペイン 1939年1月 ©International Center of Photography / Magnum Photos
- 3) ゲルダ・タロー ©International Center of Photography / Magnum Photos

※ 展覧会関連イベント
※ 詳細につきましては決定次第ホームページでお知らせします。

◎ お問い合わせ >> 朝日新聞社企画事業本部文化事業部 03-5540-7450

APAアワード2014

第42回公益社団法人日本広告写真家協会公募展

□ 大人500円 □ 学生(高校生以上)・65歳以上 300円

◎ お問い合わせ >> 公益社団法人日本広告写真家協会 03-5449-0580
◎ 公式ホームページ >> <http://www.apa-japan.com>

公益社団法人日本広告写真家協会が公募した「APAアワード2014」の入選作品を一堂に展示いたします。昨年1年間に実際の広告として世の中に流通した広告作品部門と、「希・のぞみ」というテーマに沿って写真家の新たな表現への挑戦を公募した写真作品部門で、新しい時代を彷彿させる写真をお楽しみください。

2014年は1月2日(木)より開館!

1月2日(木)は展覧会が入場無料

開館時間:2013年1月2日(木)・1月3日(金)は11:00~18:00
※2013年12月29日(日)~2014年1月1日(水・祝)は休館
※2014年1月4日(土)より通常開館(開館時間10:00~18:00、木・金は20:00まで)
(4階図書室は1月5日(日)より開室) ※月曜休館(祝休日の場合は翌火曜日休館)

1/3(金)は
入場料が
2割引!特別アーティストトーク
「高谷史郎 明るい部屋」展

【1月3日(金) 16:00-17:30 1階ホール】

出演:坂本龍一(音楽家)×浅田彰(批評家)×高谷史郎(出品作家) 定員:190名

※本展覧会チケットの半券をお持ちの方は、どなたでもご参加いただけます。
※当日10時より1階受付で整理券を配布します。
※1月3日(金)の開館時間は11:00ですが、整理券は10:00より配布いたします。整理券をご希望の方は、写真美術館1階東口(ザ・ガーデンルーム横にある美術館入口)よりご入場ください。他の入口はご利用いただけません。なお館内の展示室は11:00より開室いたしますので、あらかじめご了承ください。
※本展覧会チケット1枚につき、整理券を1枚お渡しします。
※整理券の発行は、お一人様1回につき2枚までとなります。
(その場合は本展覧会チケットも2枚必要です)
※番号順入場、自由席。 ※開場15:30(予定)

おめでとう写美クイズ

【1月2日(木)・3日(金)】

抽選場所:2階総合カウンター

クイズに答えて写美グッズを当てよう!(1/2はどなたでも参加可。1/3はチケット購入時にクイズ用紙をお渡します)

しゃび雅楽

【1月2日(木)・3日(金)】

各日13:00-/15:00- 2階ラウンジ

日本の伝統音楽である雅楽で新春をお祝いします。 出演:橘雅友会

新春フロアレクチャー
「植田正治とジャック・アンリ・ラルティエグ」展

【1月3日(金) 11:15- / 16:00- 3階展示室】

展覧会の担当学芸員が展示をわかりやすく解説します
解説:金子隆一(東京都写真美術館学芸員)
※当日有効の本展覧会チケットをご持参ください。

ナディッフ バイテン
福袋 3,000円(税込)

【1階ミュージアムショップ】

写真集やすてきな雑貨など、約2万円相当の商品がはいった毎年大好評の福袋です。(限定30個)

カフェ・ピス
アップルパイ
バニラアイス添え

【1階カフェ】

1カット 600円(税込)

店長がパイ生地から作る特製アップルパイです(1月2・3日、各日8個限定、無くなり次第終了)

写美のお正月



Film 『ヴェルディ10大傑作 パルマ王立歌劇場ライブビュー』

代表的なオペラ全10作品の白熱したライブ舞台映像をお届けします。

“歌劇王”ヴェルディの生誕200年を記念し、これぞヴェルディといえる代表的なオペラ9作品とレクイエムの全10作品を、180年以上の歴史を誇るイタリア・オペラの聖地パルマ王立歌劇場(Teatro Regio di Parma)のトップスターたちが熱演。レオ・ヌッチ、ディミトラ・テオドッシュウ、フランチェスコ・メーリをはじめとするスター歌手たちと、注目の実力派若手歌手たちによる、白熱したライブ舞台映像をお楽しみください。



© Roberto Ricci/Teatro Regio di Parma

楽画会事務局
03-3498-2508

○上映スケジュール：12月7日(土)～28日(土)
○休映日：12月9日(月)、16日(月)、24日(火)
○上映時間：ホームページ等にてご確認ください。

○料金：[当日券]一律2,800円※各種割引はございません。※全席自由席
※未就学児の入場は不可 ※その他、詳細はホームページにてご確認ください。
【映画公式ホームページ】http://gakugakai.com

Film 『手仕事のアニメーション』

セリフのない作品で世界中と会話する短編アニメ2作を初公開!

世界が注目する新作短編アニメ2作と、オスカーに輝いた短編アニメ『つみきのいえ』を同時上映。『つみきのいえ』を制作したROBOTが“テレビ”の数奇な運命を描いた『ゴールデンタイム』、日本屈指のVFX技術を誇る白組がコマ撮りアニメで描いた“靴”の物語『タップ君』ともに、セリフのない世界が心に残るメッセージを届けます。



© ROBOT

株式会社ロボット
03-3760-1171

○上映スケジュール：2014年1月11日(土)～1月26日(日) ○休映日：1月14日(火)、20日(月)
○料金：[当日券] 一般1,200円/大学生・高校生・シニア(60歳以上)・障害者手帳をお持ちの方1,000円/中学生以下600円
○上映時間：ホームページ等にてご確認ください。

1F ミュージアムショップ『ナディッフ バイテン』
r CAFÉBIS (カフェ・ビス)

【営業時間】
◎ナディッフ バイテン/10:00-18:00(木・金は20:00、土は18:30)
【お問い合わせ】Tel.03-3280-3279
◎CAFÉ BIS/11:00-18:00(ラストオーダー17:30)、
木・金は20:00(ラストオーダー19:30)
【お問い合わせ】Tel.03-6721-7474

はがきサイズの写真やカードを飾ることができる紙製のフレームです。プレゼントにもどうぞ。



フォトスタンド 各735円(税込)
ポストカード 各158円(税込)

チョコレートたっぷり、ほどよくビターでしっとり甘いブラウニーです。



ブラウニー 210円(税込)

友の会 Support
展示会のご招待・割引、1階ホールの上映映画や関連施設の割引など特典を多数ご用意して、皆様のご入会をお待ちしております。

年会費 個人会員 2,000円
家族会員(同伴者1名まで) 3,000円
シルバー会員(65歳以上の方) 1,000円
※受付は当館1階チケットカウンター横の「友の会カウンター」のみとなっております。
※会員証の有効期限等、詳細は当美術館までお問い合わせください。
Tel.03-3280-0099(開館時間中)

友の会特典	特典内容
収蔵展・映像展	無料 ※会期中は何度でもご覧いただけます ※家族会員の方は、同伴者1名まで無料
企画展・誘致展	割引 ※ご利用いただけない場合もございます
ミュージアムショップ	5%引き ※一部商品は除きます
その他	※ニュース「eyes」送付 ※1階ホールの割引(上映作品により異なります) ※観覧ポイントをとめて特典と交換 ※ロコス渋谷店で1,000円以上のお買上につき5%割引(洋書・洋雑誌)など(一部商品は除きます。) ※WINE MARKET PARTY恵比寿店でご購入金額から5%割引(一部商品は除きます、他の優待サービスとの併用不可)

支援会員 Corporate Members

東京都写真美術館の活動をご支援いただくため、次の企業・団体に支援会員としてご入会いただきました。

- 特別賛助会員 — カトーレック(株) 成美製版(株) 戸田建設(株) (株)プラザクリエイト
- キヤノン(株) 神奈川新聞社 (株)トータルプランニングオフィス (株)プリンスホテル
- (株)資生堂 カルピス(株) 積水ハウス(株) (株)トヨタ自動車(株) (株)フレームマン
- (株)ニコン (株)キクチ科学研究所 全日本空輸(株) ソニー(株) (株)トロンマネージメント (株)文化工房
- 特別支援会員 — キッコマン(株) 第一生命保険(株) (株)ニコンイメージングジャパン (株)文藝春秋
- (株)キタムラ (株)紀伊國屋書店 第一法規(株) 日外アソシエーツ(株) (株)ベネッセホールディングス
- キヤノンマーケティングジャパン(株) ギャラリー小柳 (株)ダイケングループ (株)日油(株) (株)ベルボン(株)
- 大日本印刷(株) 共同印刷(株) 大成建設(株) 日活(株) 北海道新聞社
- 凸版印刷(株) 一般社団法人共同通信社 (株)大丸松坂屋百貨店 (株)日経BP (株)ホテルオークラ東京
- 富士フイルム(株) 協和発酵キリン(株) 大和証券(株) 日産自動車(株) (株)堀内カラー
- (株)リコー (株)久米設計 (有)タカ-イシイギャラリー (株)日本カメラ社 (株)本田技研工業(株)
- 支援会員 興亜硝子(株) (株)高島屋 (株)宝島社 (株)日本空港ビルデング(株) 毎日新聞社
- (株)I&S BBDO (株)AOI Pro. (株)アサツー ディ・ケイ 玉川大学芸術学部 (株)日本経済新聞社
- (株)廣済堂 (株)講談社 (株)タムロン (株)国書刊行会 (株)タムロン (株)日本興亜損害保険(株) マミヤ・デジタル・イメージング(株)
- (株)旭化成(株) (株)光文社 (株)タムロン (株)日本広告写真家協会 (株)丸善(株)
- 朝日新聞社 (株)朝日新聞出版 (株)朝日生命保険(相) アサヒグループホールディングス(株) 小山登美夫ギャラリー(株) (株)ザ・アール (株)ティー・ビー・オー
- 朝日放送(株) アスクル(株) (株)アートよみうり (株)アマナホールディングス(株) 岩波書店 ウェスティンホテル東京 (株)潮出版社 内田写真(株) (株)栄光社 (株)エスジー (株)ADKアーツ NECディスプレイソリューションズ(株) (株)NHKアート NHK営業サービス(株) (株)NHKエデュケーションナル (株)NHKエンタープライズ (株)NHKグローバルメディアサービス (株)NHK出版 (株)NHKビジネスクリエイト (株)NHKプロモーション (株)NHKメディアテクノロジー (株)NTTデータ NTT都市開発(株) エブソン販売(株) エルメス財団 オリックス(株) オリンパスイメージング(株) (株)オンワードホールディングス 科研製薬(株) カンオ計算機(株) 鹿島建設(株) (株)角川グループホールディングス (株)弘亜社 (株)廣済堂 (株)講談社 (株)光文社 (株)国書刊行会 (株)コスモインターナショナル (株)コーセー コダック(株) サッポロ不動産開発(株) サッポロホールディングス(株) 三機工業(株) 産経新聞社 (株)サンライズ (株)サンローズィ (株)ジェイアール東日本企画 JSR(株) JXホールディングス(株) ジェイティービー印刷(株) (株)シグマ (株)実業之日本社 信濃毎日新聞社 (株)写真弘社 写真の学校/東京写真学園 シャネル(株) (株)集英社 (株)主婦と生活社 (株)主婦の友社 (株)小学館 (株)松竹(株) 信越化学工業(株) (株)新潮社 (株)スタジオアリス (株)スタジオエムジー (株)スタジオジブリ スターツ出版(株) 住友化学(株) 住友生命保険(相) (株)スリーボンド (株)生活の友社 セイコーホールディングス(株) (株)青春出版社 (株)高島屋 (株)宝島社 (株)竹中工務店 玉川大学芸術学部 (株)丹青社 (株)中央公論新社 中外製薬(株) 帝人(株) (株)ティー・ビー・オー (株)TBSテレビ デジタル・アドバタイジング・コンソーシアム(株) (株)テレビ朝日 (株)テレビ東京 電源開発(株) (株)電通 (株)電通テック 東亜建設工業(株) 東映(株) 東急建設(株) 東京海上日動火災保険(株) 東京急行電鉄(株) 東京工芸大学 東京新聞・中日新聞社 (株)東京スタデオ 東京造形大学 (株)東京総合写真専門学校 東京テアトル(株) 東京都競馬(株) (株)東京ドーム (株)東京ニュース通信社 (株)東京美術倶楽部 (学)専門学校 東京ビジュアルアーツ 東京メトロポリタンテレビジョン(株) (株)東芝 東宝(株) (株)東北新社 (株)東洋経済新報社 東洋熱工業(株) (株)トキワ (株)徳間書店 (株)プラザクリエイト (株)プリンスホテル (株)フレームマン (株)文化工房 (株)文藝春秋 (株)ベネッセホールディングス (株)ベルボン(株) 北海道新聞社 (株)ホテルオークラ東京 (株)堀内カラー 本田技研工業(株) 毎日新聞社 (株)マガジンハウス (株)マミヤ・デジタル・イメージング(株) 丸善(株) (株)マンダム (株)みずほ銀行 (株)日本色材工業研究所 (株)日本写真印刷(株) (公社)日本写真家協会 (公社)日本写真協会 日本写真芸術専門学校 一般社団法人日本写真文化協会 日本大学芸術学部 日本たばこ産業(株) 日本テレビ放送網(株) (株)ニューアートデュジョン ノーリツ鋼機(株) (株)博報堂 (株)博報堂DYメディアパートナーズ (株)博報堂プロダクツ (株)バス・コミュニケーションズ (株)ハースト婦人画報社 バナソニック(株) (株)バラゴン バリミキ びあ(株) ビービーメディア(株) 北海道写真の町東川町 東日本旅客鉄道(株) 光写真印刷(株) (株)美術出版社 (株)日立製作所 (株)日立物流 (株)ビックカメラ (株)ビデオプロモーション ヒノキ新薬(株) (株)ピラミッドフィルム (株)ファーストリテイリング 富国生命保険(相) (株)フジテレビジョン 富士電機(株) (株)双葉社

(株)=株式会社、(相)=相互会社、(有)=有限会社、(学)=学校法人、(公社)=公益社団法人 (平成25年11月現在・五十音順)